

平成27年度「全国学力・学習状況調査」における 中尾 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

中尾 小学校「平成27年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)結果

		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
平成 2 5 年度	本市	60.3	46.3	74.6	56.5	
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4	
平成 2 6 年度 (理科：平成24年度)	本市	69.1	52.6	76.2	55.4	59.7
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2	60.9
平成 2 7 年度	本市	67.1	62.1	73.3	43.7	57.3
	全国	70	65.4	75.2	45	60.8

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率を上回っている。 正答率の高い児童の数が多く、反面、正答率の低い児童が多いという両極端である。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	漢字を正しく読むことや、筆者が引用している言葉を書き抜くこと。	上回っている
	努力が必要な問題	文の主語として適切なものを選択したり、文の内容に対する聞き方を工夫したりすること	

国語B	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率を上回っている。 無回答が少なく、よくがんばっている。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	目的に応じ、中心となる語や文をとらえること。	上回っている
	努力が必要な問題	目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率を上回っている。 図形領域での正答率が低い傾向にある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	四則計算での正答率が高い。	上回っている
	努力が必要な問題	角の大きさを読み取り求めたりする問題で正答率が低かった。	

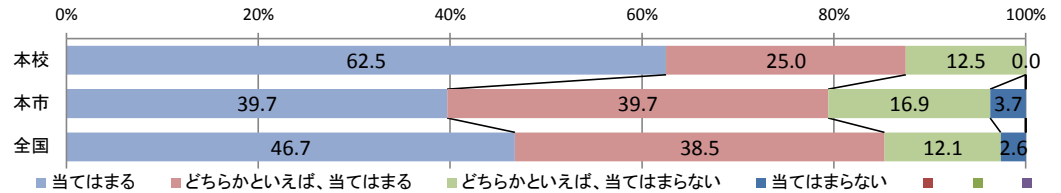
算数B	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率を上回っている。 記述式の問題にも自分なりの考えを表現できている。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	問題の解き方や理由を説明する問題で、全国平均を大きく上回っている。	上回っている
	努力が必要な問題	図形の性質や示された考えを基に、根拠となる事柄を過不足なく説明すること。	

理科	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率を上回っている。 生き物に関する学習で正答率が低い傾向にある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	水の温度や温まり方についての正答率が高い。	上回っている
	努力が必要な問題	顕微鏡の各部の名称や適切な操作方法の学習が必要である。	

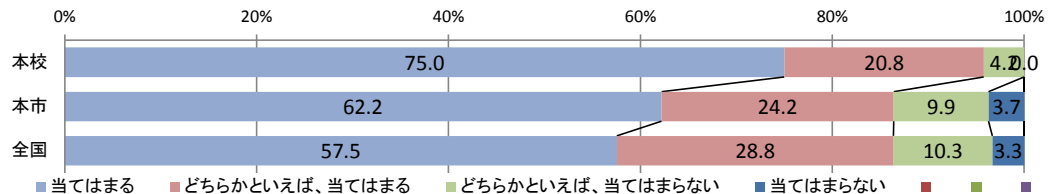
③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

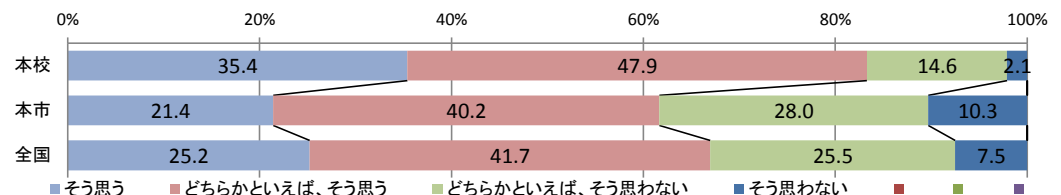
39
授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。



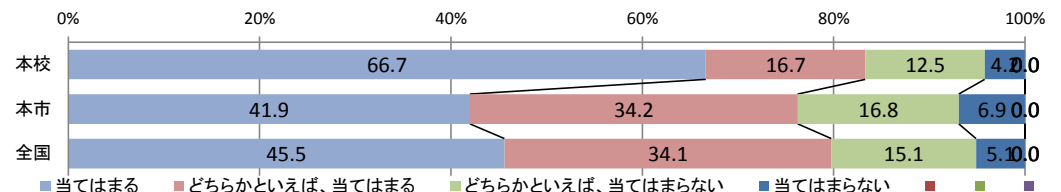
41
授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか。



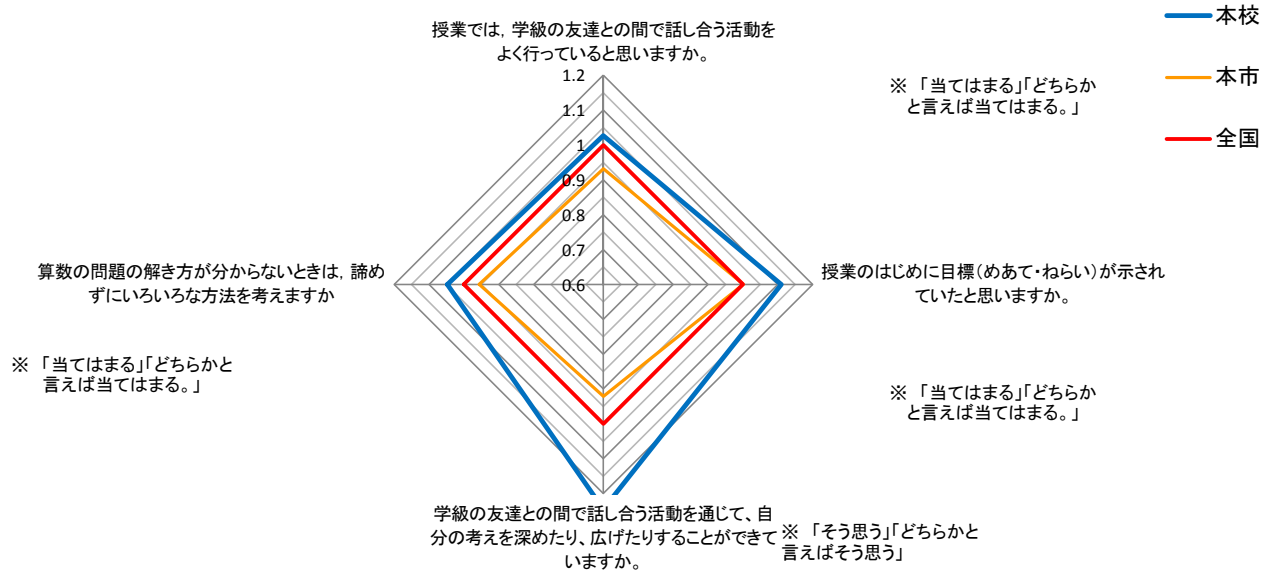
46
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。



62
算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

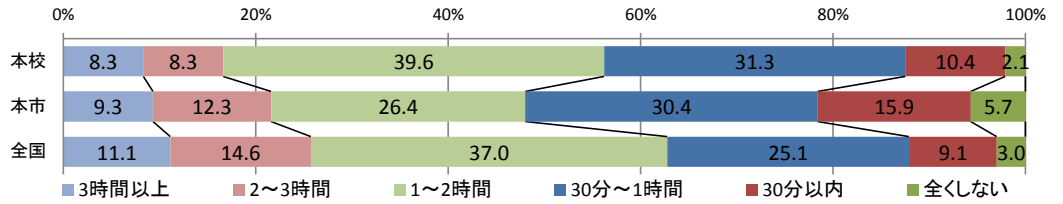
- ・学習の始めに本時のめあてがきちんと示され、学習のおわりにまとめや振り返りが行われていると感じている児童が多い。大切なことなので、今後も学校全体で推進していく。
- ・算数に限らず、学習の中で分からないことはじっくり考えると答えた児童が多い。また、分からないときは、そのままにせず、友達や先生、お家の人に尋ねたりしていることがよい。
- ・学習の中で、話し合う場面を大切に指導してきたことが、質問紙の結果に表れている。

2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

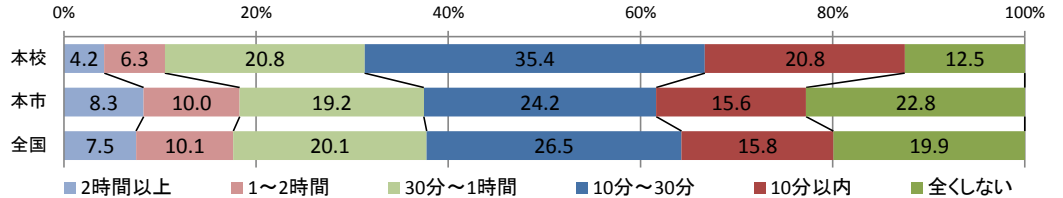
① 家庭学習習慣に関する調査結果

質問番号
質問事項

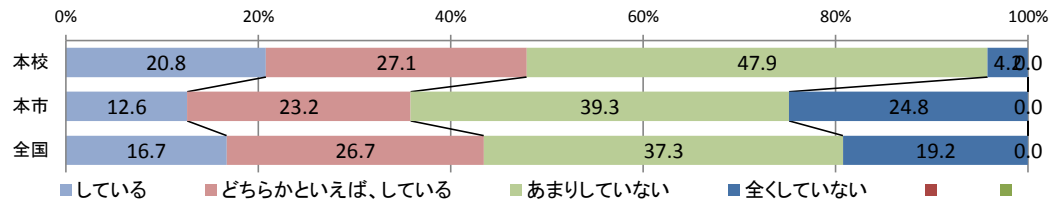
13
学校の授業時間以外に、普段(月曜日 から金曜日)、1日当たりどれくらいの 時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強 している時間や家庭教師の先生に教 わっている時間も含まれます。)



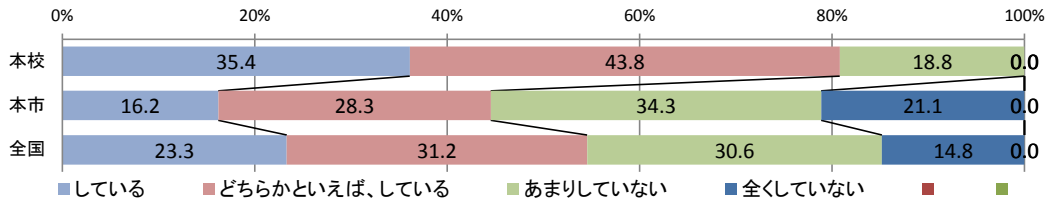
16
学校の授業時間以外に、普段(月曜日 から金曜日)、1日当たりどれくらいの 時間、読書をしますか。(教科書や参考 書、漫画や雑誌は除きます。)



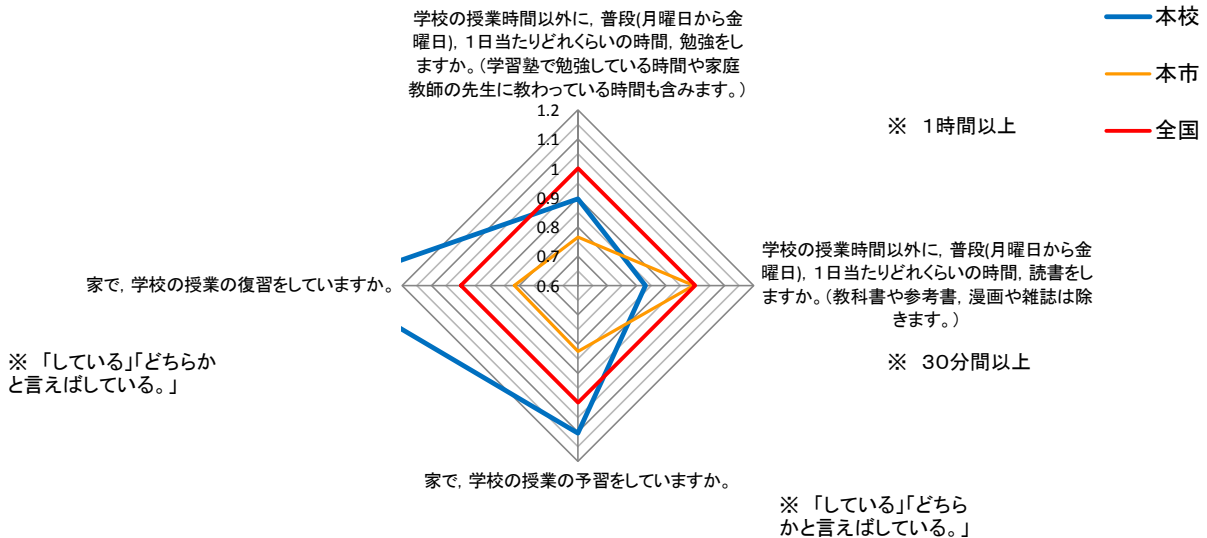
22
家で、学校の授業の予習をしていますか。



23
家で、学校の授業の復習をしていますか。



② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



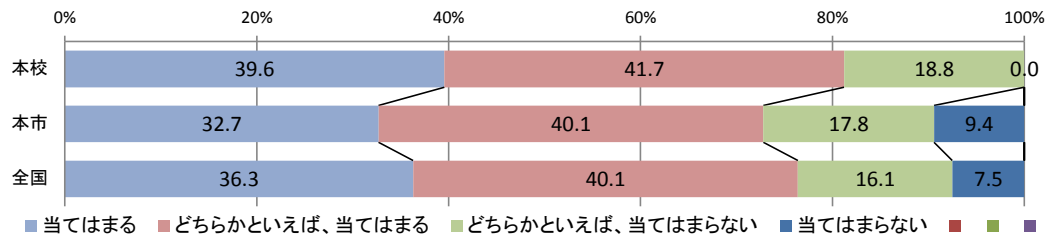
③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

- ・家庭での学習時間や読書の時が、それほど多いわけではない。しかし、全く学習しないという児童が少なく、きちんと家で学校の宿題をしている児童が多い。
- ・家庭で、予習もするが特に復習に力を入れていることがよい。
- ・学校での自学の取組で、予習する児童も増えた。

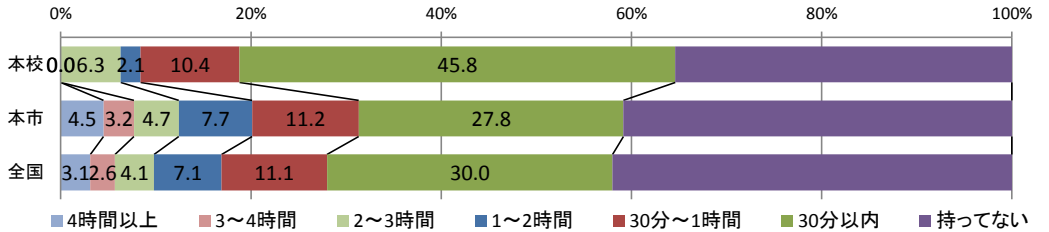
④ 生活習慣等に関する調査結果

質問番号
質問事項

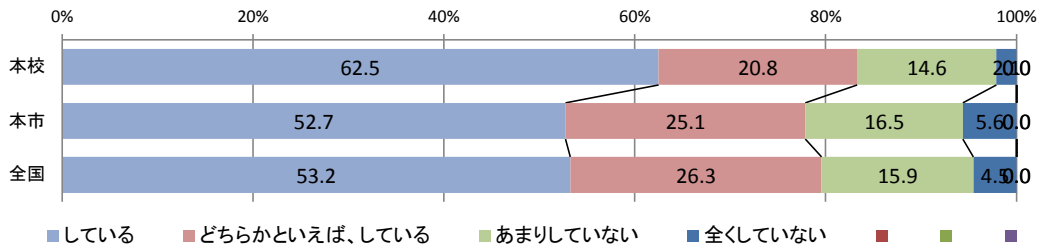
6
自分には、よいところがあると思いますか。



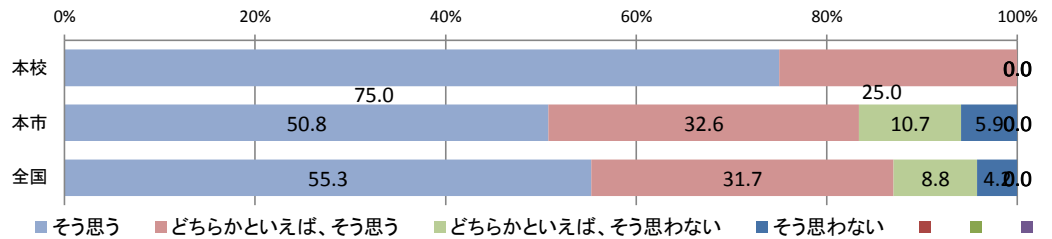
12
普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除きます。)



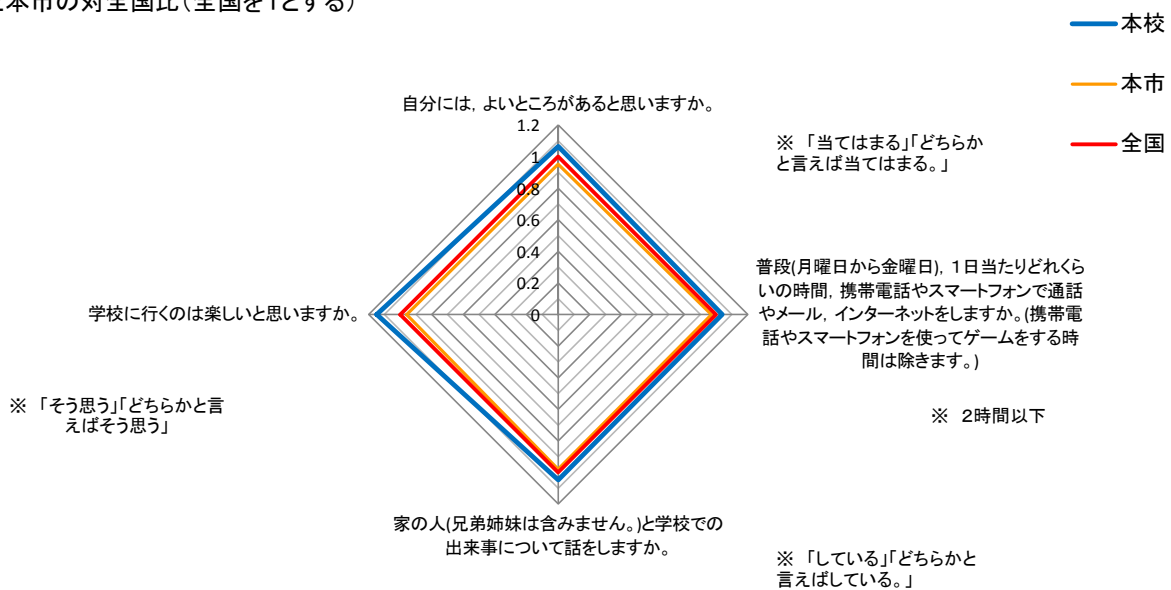
18
家の人(兄弟姉妹は含みません。)と学校での出来事について話をしますか。



24
学校に行くのは楽しいと思いますか。



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果の分析

・携帯電話やスマートフォンについては、持っていないと30分以内の使用時間を合わせると児童の80%以上であり、全国や本市と比較して少ないと言える。

・「自分には、よいところがあると思いますか。」という設問結果からセルフエスティームが高いと言える。

・学校に行くのは楽しいと感じ、お家の人も学校の話をよくするなど、学校適応感の高さもうかがえる。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組(全校・学年・学級・教科毎の取組)

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

◎ 学力向上のための特設時間の実施

・中尾タイム(掃除時間後の10分間)で全校一斉に漢字や言葉の学習、計算などを行う。担任外が各学年を順にまわり、担任と一緒に○を付けたり、やり方を教えたりしている。

・火曜日の音読タイム(朝自習)、木曜日の読書タイム(朝自習)、木曜日の視写タイム(中尾タイム)を実施する。
・休み時間に、その月の音読暗唱を校長・教頭・教務で聞き、合格シールを渡す。毎学期、どの月の課題にも合格した児童には、パーフェクト賞の賞状を発行するようにしている。

◎ 過去問題やアシストシートの活用

・アシストシートやWEB問題を導入で使い、基礎基本の徹底を図るようにしている。
・アシストシートと過去問を冊子にして、冬休み・春休みの「宿題帳」とする。答え合わせも行い、間違った問題の書き直しもきちんとさせている。

○ 学習指導の工夫

・学習の際の話型を、低学年、中・上学年と発達段階に応じて掲示し授業に活用している。
・ノートの書き方を、「めあて」から「まとめ」まで分かりやすくまとめるように具体的に指導している。

○ 重点的な取組

・考えさせる授業、児童が互いに考えを出し合い練り合う授業を目指している。

② 家庭生活習慣等に関する取組

◎ 宿題のスタンダード化(時間、学年別・教科別内容)

・自主学習ノート全学年(1年生は、2学期から)ほとんど毎日取り組むようにさせ、そのチェックや評価にも力を入れている。
・家庭学習時間は、低学年30分以上、中学年45分以上、上学年60分以上を目標として、保護者にも周知している。
・「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用について児童や保護者に説明し、活用状況を定期的にチェックしている。
・冬休み・春休みの宿題に、過去問題やアシストシート、WEB問題を活用

○ 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知

・家庭教育学級や学年懇談会等で、結果と取組を説明し、家庭と連携し協力体制を整える。
・毎年4月に「家庭学習の手引き」を配布すると共に、学校だよりの中にも学習に関するコーナーを設け、家庭学習の大切さを呼びかけ、保護者の協力を求めている。